

三浦印刷 株式会社

●代表者/代表取締役社長 日達 浩造 ●創業/1931年9月 ●従業員数/377名
●所在地/東京都墨田区千歳2-3-9 ●URL/www.miura.com

安定したCTP出力実現 フロー全体が効率アップ



多田氏



桐山氏

「情報・文化を事業ドメインとして、お客様に喜びと感動を与え、信頼度ナンバーワン企業を目指す」を経営ビジョンとしている、三浦印刷(株)は、創業が昭和6年の老舗企業で、社歴は85年、従業員は現在377人を擁している。同社では、新しい形式のデータや顧客からのデータの多様化に対応するため、平成19年に富士フィルムグローバルグラフィックシステムズのワークフローシステム「XMF Complete」をいち早く導入し、PDFを中心とした運用を開始した。「これまでのRIPシステムでは、DTPアプリが新しくなるたびにエラーが発生していた。そのため、RIPシステムのバージョンアップや回避方法の検討など、試行

錯誤しながら問題解消の策を検討していた。『XMF Complete』導入し、PDF運用に変えたことでエラーも減り、安定してCTP出力ができるようになった」と同社プリプレス部DTP課の桐山圭子氏は話す。

「XMF Complete」を導入した一番の効果は、その生産性の高さであるという。以前のRIPシステムより処理速度が速くなっているだけでなく、CTP出力のための面付け作業もXMF上で行えることから処理待ちなどのダウンタイムがなくフロー全体の効率が良くなったという。

「RIP演算だけでなく、面付けなどのプリプレスに必要な設定作業がXMFで完結して進められること



導入で顧客と自社双方にメリットが出ている

が大きい。単に面付け機能が搭載されているだけでなく、操作性も良いため、RIP専任担当者を付けなくても効率よく運用できる」と話すのは品質保証部品質管理課の多田康雄氏である。

同社で蓄積されたプリプレスワークフローのノウハウはデジタル印刷機「JetPress」の運用にも活かされている。同社では「JetPress」のメリットを引き出すため、社内には「JetPress」専任チームを創設しているという。「JetPressの用途は校正と小ロット対応だが、現時点では校正と小ロット印刷の比率は半々ほどである。専任チームで製版から請け負うことで、オフセット印刷では実現できないスピードや品質を達成できる」と多田氏。

XMF Complete導入前はRIP専従の社員しか扱っていなかったのだが、XMF導入後はRIPシステムに対する敷居が低くなり、編集部門のオペレーターも扱うことで、一人の社員が様々な作業をこなせるという多能工化が進んでいる。たとえば、歴史が長い会社であるがゆえのアナログ製版も同社には残っているが、アナログ製版専任の社員はいないという。これは、XMFの操作性の良さにより、アナログ製版メインの社員でもすんなり使いこなせるからである。今では、ほとんどのアナログフィルムはデジタルスキャンし

てXMF経由でCTP出力しているが、移行もスムーズに行え、さらにアナログでの刷版作業を行っていた時代よりも刷版部門の従業員が減り、少人数でアナログ時代以上の量をこなせるようになっている。

このように「XMF Complete」を活用して作業の効率化を図ってきた同社だが、顧客とのやり取りのスピードアップでさらなる効率化を図るため、「XMF Remote」も導入している。「XMF Remoteの導入により、営業も含めたトータル生産向上効果が期待できる」と多田氏。「XMF Complete」を導入することで、編集・プリプレス部門からRIPを扱えるようになっていたのに加え、「XMF Remote」の導入で、RIPされた正確なデータを利用して顧客との校正のやり取りができるようになる。また、営業部員もお客様との校正紙での確認作業が削減され、本来の受注活動に傾注できる。同社の営業は総勢で80人近くいるが、この数の人員がRemoteを活用・提案していけば、その波及効果は大きいものになる。

「XMF Remoteのオンライン校正機能を活用することで、口頭でのやり取りによる曖昧さを排除でき、かつ短時間でお客様に修正結果を戻すことができる。これはお客様と当社の両方のメリットにつながる」と多田氏は期待をしている。